



西中図書館 新刊オススメ本



『「賢い子」は図鑑で育てる』

瀧 靖之 [著]
講談社

刺激すればするほど、
使えば使うほど発達する
のが子どもの脳です。
この脳を刺激するのに
一番いいのが「図鑑」
です。作者は東北大学

の脳医学者で、大学が所有する膨大なMRI画像データを解析し、「賢い脳」を育てるには、「図鑑」の活用が一番と考えています。決して図鑑は子どもだけに向けられたものではありません。本書をきっかけに、お子さんだけでなく、お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんまでもが、好奇心をもって、図書館で図鑑を開いてみてください。



『読書という荒野』

見城 徹 [著]
幻冬舎

『ことことこーこ』

阿川 佐和子 [著]
角川書店



『どんまい』

重松 清 [著]
講談社

『となりの脳世界』

村田 沙耶香 [著]
朝日新聞出版



町民ギャラリー わらべ・いと

今月は、
青津 栄子さん（縄沢）の作品です。

作品名
「正月飾りとくくり猿」

作品紹介

気の合う仲間と始めたつるし飾り。月2回程度、おしゃべりしたり、互いに切磋琢磨しながら楽しい時間を過ごしています。ひと針ひと針、心を込めて縫い上げた作品は、出来はどうかあれ、とてもいとしきものです。

この作品は、わが家に生まれた孫娘の健やかな成長を願い作ったもので、新年に飾りました。鯛や羽子板など、縁起の良いものをつつりしています。くくり猿には、苦（九）難が去る（猿）という意味があります。



第30回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会

昨年より順位を3つ上げる大健闘（総合38位）

白河市の白河カールスポーツパークをスタートし、福島県庁までの95・0キロ、16区間を1本の棒でつなぐ第30回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会「ふくしま駅伝」が11月18日に開催されました。コースの変更に伴い昨年よりも走る距離が200メートル増え、総合タイムは若干落ちましたが、町チームは昨年よりも順位を3つ上げる大健闘を見せました。



中継所で仲間が運ぶタスキを待つ伊藤大河選手



スタート地点での記念撮影



アンカーの薄上南平選手



見事な走り町チームをけん引した佐藤茂哉選手

選手・スタッフ一丸で 来年の躍進誓う

第30回ふくしま駅伝は、町混合チーム「希望ふくしま」を含め、県内59市町村から53チームが出場しました。これまで、町ふくしま駅伝実行委員会では、昨年に引き続き監督を務めることとなった佐藤正光さんを中心に、猛暑が続いた7月から週3回、さゆり公園で練習を重ねてきました。さらに、近隣市町村で行われるマラソン大会への出場や、本番前の試走も複数回行うなど、大会に向けての調整を図ってきました。

天候に恵まれた大会当日、最前列からのスタートとなった1区の須藤帆南選手は、強豪揃いの女子のエース区間を39位と昨年同様の好スタートを切り、続く2区の伊藤亜久里選手も区間35位の力走で3区へとつなぎました。そして、3区の伊藤大河選手は区間22位の好走で総合順位を8つ上げ、7区の横山翔大選手は区間24位、8区の鈴木俊哲選手は区間32位、9区の齋藤朱峰選手は区間38位、14区の三留拓真選手は区間31位と、それぞれの目標タイムを上回る走りを見せました。また、最長区間の10区では8年連続出場となる不動のエース、佐藤茂哉選手が区間18位と、総合順位を3つ上げる見事な走り町チームをけん引しました。大会前日には、選手が緊張による体調不良を起こすなど心配な面もありましたが、当日は町から駆け付けた応援団などの声に奮起し、結果として、総合タイムは昨年よりも若干落ちたものの、順位を3つ上げる好成績を残すことができました。一人一人の力が十分に発揮でき、また、選手やスタッフが出来年の躍進を誓う大会となりました。